

折に触れ 四字熟語

NO. 172 〔帰馬放牛〕 きば ほうぎゅう

< 意味 > 戦争が終わって平和になるたとえ。また、再び戦争をしないたとえ。戦争で使った馬や牛を野に帰し放つ意から。「馬を帰し牛を放つ」と訓読する。

故 事 : 中国周の武王が殷の紂王を討つてのち、武力を用いず学問を重んじ、軍用の馬を崑山（河南省）の南に帰し、牛を桃林（河南省）の野に放って再び用いないことを示した故事から。

出 典 : 『書経』武成^{ぶせい}

表 現 : 帰馬放牛の願い

一 言 : 牛の字の続きです。

今も世界のどこかで戦争の悲劇が続いています。何とか戦車も戦闘機も銃も捨てて平和な世の中にならないものか祈るばかりです。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」